

第2学年 特別の教科 道徳 学習指導略案

令和3年6月12日（土）2時間目

2年 1組

児童数 25名

授業者 佐々木 隆志

1 主題名 「友達のために」（内容項目：友情、信頼（B 主として人との関わりに関すること））

2 資料名 「ともだちやもんな、ぼくら」（東京書籍 あたらしい どうとく）

3 ねらい 身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。

4 授業の流れ

	◆学習活動（○主な発問 ・予想される児童の反応）	・指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>◆友達がいてよかったと思う経験について話し合う。</p> <p>○友達がいてよかったと思うときはどんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んでいて、楽しいとき。 ・困っていて、助けてくれたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な状況を答えている児童には、「そのときは、どんな気持ちになったのかな。」と心情面についても答えを促すようにする。 ・友達のよさについて話し合うことで、ねらいとする価値へと方向づける。
展開	<p>◆「ともだちやもんな、ぼくら」を読んで、話し合う。</p> <p>○ヒデトシが転んでも走り続ける「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごく怖い。 ・早く逃げたい。 ・ヒデトシごめん。 <p>○（どうしよう…）と悩んでいたとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖いけど、ヒデトシが心配だから助けに行こうかな。 ・ヒデトシのことなんか放っておこう。 <p>◎「いこうか。ヒデトシをたすけに。」と言ったとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒデトシは友達だから、助けなくちゃ。 ・悪いことをしたのは僕も同じだから、一緒に謝ろう。 ・ヒデトシが心配だ。 <p>○「ともだちやもんな、ぼくら。」と言った「ぼく」はどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を大切にしよう。 <p>◆友達が本当に困ったことについて話し合う。</p> <p>○「友だちにいじわるをしている子がいます。ほかの友だちは気がついていないようです。意地悪に気づいているのは、あなただけですどうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるを やめさせる。 ・だれかに そうだんする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必死に逃げる動作化を通して、ヒデトシのことまで考えられない「ぼく」の心情を捉えられるようにする。 ・助けに行きたいが、怒られるかもしれないという葛藤があったことを押さえる。 ・葛藤し悩んでいたにもかかわらず、ヒデトシを助けに行こうと言えた理由について話し合うことで、ねらいに迫るようにする。 ☆ヒデトシのことを真剣に思う「ぼく」の心情を考えることができたか。 ・自分の思いが友達に通じたときの気持ちを考え話し合う。 <p>よりよい友達関係を築いていくために何ができるかを考えることで、ねらいとする道徳的実践への意欲を高める。</p> <p>☆今までの自分の生活を振り返り、友達がこまったときに、自分ができることについて考えることができたか。</p>
終末	◆教師の語り	

第2学年 特別の教科 道徳 学習指導略案

令和3年6月12日（土）2時間目

2年 2組

児童数 25名

授業者 田中 雅子

1 主題名 「友達のために」（内容項目：友情、信頼（B 主として人との関わりに関すること））

2 資料名 「ともだちやもんな、ぼくら」（東京書籍 あたらしい どうとく）

3 ねらい 身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。

4 授業の流れ

	◆学習活動（○主な発問 ・予想される児童の反応）	・指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>◆友達とはどんな人かについて話し合う。</p> <p>○友達ってどんな人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでくれる子 ・困ったときに声を掛けてくれる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とは何かについて話し合うことで、ねらいとする価値へと方向づける。
展開	<p>◆「ともだちやもんな、ぼくら」を読んで、話し合う。</p> <p>○ヒデトシが転んでも走り続ける「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく逃げたい。 ・かみなりじいさんにつかまるのが怖い。 ・ヒデトシ、ごめんね。 <p>○（どうしよう…）と悩んでいたとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直に言わなきゃいけないけど、怖いな。 ・ヒデトシが心配だから、行こうかな。 <p>◎「いこうか。ヒデトシをたすけに。」と言ったとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒデトシは大切な友達だから、助けに行こう。 ・ぼくも悪いことをしたから、一緒に怒られよう。 <p>○「ともだちやもんな、ぼくら。」と言った「ぼく」はどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからどんなことがあっても、助けに行くからね。 ・何があっても、これからも友達でいよう。 <p>◆友達が本当に困ったときにどうするかについて考える。</p> <p>○「友達にいじわるをしている子がいます。他の友達は気が付いていないようです。意地悪に気付いているのは、あなただけです。あなたは、どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじわるはだめだよ。」と言う。 ・家の人、先生に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必死に逃げる動作化を通して、ヒデトシのことまで考えられない「ぼく」の心情を捉えられるようにする。 ・助けに行きたいが、怒られるかもしれないという葛藤があったことを押さえる。 ・葛藤し悩んでいたにもかかわらず、ヒデトシを助けに行こうと言えた理由について話し合うことで、ねらいに迫るようにする。 ☆ヒデトシのことを真剣に思う「ぼく」の心情を考えることができたか。 ・自分の思いが友達に通じたときの気持ちを考え話し合う。 ・よりよい友達関係を築いていくために何ができるかを考えることで、ねらいとする道徳的実践への意欲を高める。 ☆今までの自分の生活を振り返り、友達が困っているときに、自分ができることについて考えることができたか。
終末	<p>◆教師の説話を聞く。</p>	

第2学年 特別の教科 道徳 学習指導略案

令和3年6月12日（土）2時間目

2年 3組

児童数 25名

授業者 相原 大成

1 主題名 「友達のために」（内容項目：友情、信頼（B 主として人との関わりに関すること））

2 資料名 「ともだちやもんな、ぼくら」（東京書籍 あたらしい どうとく）

3 ねらい 身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。

4 授業の流れ

	◆学習活動（○主な発問 ・予想される児童の反応）	・指導上の留意点 ☆評価
導入	<p>◆友達がいてよかったと思う経験について話し合う。</p> <p>○友達がいてよかったと思うときはどんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んでいるとき。 ・困っているときに声を掛けてくれたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な状況を答えている児童には、「そのときは、どんな気持ちになったのかな。」と心情面についても答えを促すようにする。 ・友達のよさについて話し合うことで、ねらいとする価値へと方向づける。
展開	<p>◆「ともだちやもんな、ぼくら」を読んで、話し合う。</p> <p>○ヒデトシが転んでも走り続ける「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく逃げたい。 ・かみなりじいさんにつかまるのが怖い。 ・ヒデトシ、ごめんね。 <p>○（どうしよう…。）と悩んでいたとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごく怖いけど、助けに行こうかな。 ・かわいそうだけれど、放っておこうかな。 <p>◎「いこうか。ヒデトシをたすけに。」と言ったとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒデトシは大切な友達だから、助けに行こう。 ・ぼくも一緒に怒られに行こう。 ・ヒデトシが心配 ・きっと僕たちが来るのを待っているはず。 <p>○「ともだちやもんな、ぼくら。」と言った「ぼく」はどんなことを思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからどんなことがあっても、助けに行くからね。 <p>◆友達が本当に困ったことについて話し合う。</p> <p>○「友だちにいじわるをしている子がいます。ほかの友だちは気がついていないようです。意地悪に気づいているのは、あなただけです。どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじわるを やめさせる。 ・だれかに そうだんする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必死に逃げる動作化を通して、ヒデトシのことまで考えられない「ぼく」の心情を捉えられるようにする。 ・助けに行きたいが、怒られるかもしれないという葛藤があったことを押さえる。 ・葛藤し悩んでいたにもかかわらず、ヒデトシを助けに行こうと言えた理由について話し合うことで、ねらいに迫るようにする。 ☆ヒデトシのことを真剣に思う「ぼく」の心情を考えることができたか。 ・自分の思いが友達に通じたときの気持ちを考え話し合う。 <p>よりよい友達関係を築いていくために何ができるかを考えることで、ねらいとする道徳的実践への意欲を高める。</p> <p>☆今までの自分の生活を振り返り、友達がこまったときに、自分ができることについて考えることができたか。</p>
終末	◆教師の語り	

